

事業報告書

令和7年度(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(1)農作物共済関係

【引受概況】

水 稲

引 受 面 積 : 全引受方式に係る引受面積は、1,470,122.6aで前年産引受面積1,494,249.6aに対し、24,127.0aの減(98.4%)となった。

引 受 率 : 農林水産省発表の作付面積29,800haに対する引受率は、49.3%で収入保険と併せて91.7%となった。

引 受 収 量 : 半相殺方式・全相殺方式・地域インデックス方式の総引受収量は66,513,122kgで、平均実行単収は 508kgとなった。

基 準 生 産 金 額 等 : 品質方式の基準生産金額は、88,201,391円となった。

単 位 当 たり 共 済 金 額 : 半相殺方式・全相殺方式・地域インデックス方式の1kg当たりの平均は190円となった。

麦(令和7年産)

引 受 面 積 : 引受面積は314,040.2aで、前年産引受面積342,359.1aに対し、28,318.9aの減(91.7%)となった。

引 受 率 : 農林水産省発表の7年産作付面積 8,417haに対する引受率は、37.3%で収入保険と併せて90.0%となった。

基 準 生 産 金 額 等 : 災害収入共済方式の基準生産金額は1,184,530,576円となった。

(引受)

年産	共済目的	引受方式	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持 共済掛金 (A) ± (B) 円
7 年 産	水稲	地域インデックス方式	9,193	1,296,970.5	11,514,815,782	4,457,977	5,360,490	11,302,481
		全相殺方式	473	121,718.3	928,545,315	1,287,918		
		半相殺方式	245	41,152.7	193,321,389	88,832		
		品質方式	23	10,281.1	79,381,242	107,264		
	麦	災害収入共済方式	延 444	314,040.2	1,065,318,676	10,392,332	(納) 535,571	9,856,761
			実 441					
	計		延 10,378	1,784,162.8	13,781,382,404	16,334,323	4,824,919	21,159,242
			実 10,055					
8 年 産	麦	災害収入共済方式	延 390	266,467.6	820,954,024	8,182,374	(納) 424,021	7,758,353
			実 387					

水 稲

【被害概況】

梅雨明けが6月27日と非常に早く、その後も降水量が少なかったため、一部ほ場で土壤水分不足となり干害が発生した。一部地域においてイモチ病、イネごま茎枯病の被害が発生した。7月から8月にかけて、受粉障害の発生が多くなるとされる35℃を超える日が続いたことで不稔もみが多く発生し、減収の要因となった。一部地域にて局地的な降雨の影響により倒伏の被害が発生した。獣害に関しては、県下山間部においてイノシシ、シカ、サルによる踏み倒し及び食害が発生した。

【評価の概要】

評価については、半相殺方式および一筆全損特例、一筆半損特約の被害申告筆の現場確認及び半相殺方式以外の方式の分割評価等の見回り評価について各支所で実施した。損害評価会委員による県下状況見回り調査を8月26日(早期品種)、9月19日(中生・普通期品種)に実施した。

麦(令和7年産)

【被害概況】

散発的にまとまった降雨があったため、一部ほ場では土壌が湿潤状態となり発芽が抑制、根の生育が阻害されたことで生育不良となった。5月に定期的に強雨があり、例年に比べて倒伏が目立った。6月上旬～中旬は降雨が多く連続した降雨と多湿条件が続いたことで、赤かび病や県南部で作付けされたびわほなみを中心に穂発芽が発生し、品質が低下した。獣害に関しては、山間部の一部ほ場でシカ、サルによる踏み倒し及び食害が発生した。鳥害に関しては、湖岸付近の一部ほ場でオオバンによる食害が発生し、生育不良となった。

【評価の概要】

評価については、一筆全損特例の被害申告筆の現場確認及び分割評価等の見回り評価について各支所で実施した。損害評価会委員による県下作況見回り調査を5月16日(大麦)、5月30日(小麦)に実施した。

(被害)令和7年産

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	$\frac{\text{共 済 金}}{\text{共 済 金 額}}$ %
水稲	地域インデックス方式	109	12,212,160	0.11
	全相殺方式	7	300,096	0.03
	半相殺方式	7	348,210	0.18
	品質方式	0	0	0
麦	災害収入共済方式	116	42,793,664	4.02
計		239	55,654,130	0.40

令和6年産 全相殺、品質方式(青色申告書等調査 事業開始11月から2月)

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	$\frac{\text{共 済 金}}{\text{共 済 金 額}}$ %
水稲	全相殺方式	32	3,385,590	0.35
	品質方式	3	602,219	0.74

令和6年産 全相殺方式(青色申告書等調査 事業開始3月から6月)

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	$\frac{\text{共 済 金}}{\text{共 済 金 額}}$ %
水稲	全相殺方式	1	168,675	0.02

(支払)

共済目的	方式	支払月日	実支払 共済金 円	共済金支払財源					$\frac{\text{実支払共済金}}{\text{共済金}}$
				保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
水稲 (令和7年産)	半相殺	令和7年12月24日	348,210	0	8,798,102	36,999,267			
	全相殺・品質・インデックス (一筆全損・一筆半損)	令和7年12月24日	12,512,256						
	災害収入	令和7年12月24日	42,793,664						
水稲 (令和6年産)	全相殺・品質 (事業開始11月～2月)	令和7年5月12日	3,987,809	0	2,689,366	1,467,118			
	全相殺 (事業開始3月～6月)	令和7年9月29日	168,675	0					
計			59,810,614	0	21,344,229	38,466,385	0	0	100.0

(2)家畜共済関係

【引受概要】

引受戸数は死亡廃用共済で72戸、疾病傷害共済で94戸となった。引受頭数は死亡廃用共済の搾乳牛1,744頭、繁殖用雌牛1,345頭、育成乳牛564頭、育成・肥育牛20,311頭、育成・肥育馬6頭で合計23,970頭となり、共済金額合計は12,894,100,970円となった。疾病傷害共済においては、乳用牛2,146頭、肉用牛21,241頭、一般馬5頭で合計23,392頭となり、共済金額合計は623,949,418円となった。本年度の廃業は死亡廃用共済で育成・肥育牛1戸、疾病傷害共済で乳用牛1戸、肉用牛3戸となった。

(引受)

区 分 \ 項 目		有 資 格 頭 数 頭	事業計画 頭 数 頭	引 受 頭 数 頭	引 受 頭 数 事業計画頭数 %	共 済 金 額 円
死 廃 共 済	搾 乳 牛	1,713	1,782	1,744	97.9	520,247,560
	繁 殖 用 雌 牛	1,434	1,437	1,345	93.6	555,935,630
	育 成 乳 牛 (子 牛 等)	451	593	550	92.7	133,016,130
			-	14		
	育 成 ・ 肥 育 牛 (子 牛 等)	20,965	20,533	20,128	98.0	11,683,874,750
			-	183		
	繁 殖 用 雌 馬	0	0	0	-	0
	育 成 ・ 肥 育 馬	7	6	6	100.0	1,026,900
	種 豚	0	0	0	-	0
	肉 豚	1,182	0	0	-	0
計		25,752	24,351	23,970	98.4	12,894,100,970
疾 病 傷 害 共 済	乳 用 牛	2,164	2,220	2,146	96.7	79,087,093
	肉 用 牛	22,399	21,505	21,241	98.8	544,767,862
	一 般 馬	7	4	5	125.0	94,463
	種 豚	0	0	0	-	0
	計	24,570	23,729	23,392	98.6	623,949,418
合 計		50,322	48,080	47,362	98.5	13,518,050,388

区 分 \ 項 目		徴収 共 済 掛 金 円	納入保険料 円	交付金 円	手持 共済掛金 円
死 廃 共 済	搾 乳 牛	3,826,203			
	繁 殖 用 雌 牛	905,813			
	育 成 乳 牛 (子 牛 等)	1,162,681			
	育 成 ・ 肥 育 牛 (子 牛 等)	36,027,157			
	繁 殖 用 雌 馬	0			
	育 成 ・ 肥 育 馬	103,476			
	種 豚	0			
	肉 豚	0			
	計	42,025,330			
疾 病 傷 害 共 済	乳 用 牛	11,807,270			
	肉 用 牛	51,842,681			
	一 般 馬	10,559			
	種 豚	0			
	計	63,660,510			
合 計		105,685,840	0	105,492,564	211,178,404

【事故概要】

(死廃事故)

死廃事故総頭数は331頭、支払共済金は73,317,276円となった。搾乳牛の死廃事故頭数は64頭、支払共済金は12,141,922円となった。繁殖用雌牛の死廃事故頭数は11頭、支払共済金は3,614,853円となった。育成乳牛の死廃事故頭数は14頭、支払共済金は817,491円となった。育成・肥育牛の死廃事故頭数は240頭、支払共済金は56,449,710円となった。育成・肥育馬の死廃事故頭数は2頭、支払共済金293,300円となった。前年度と比較して頭数、支払共済金ともに35頭、2,499,713円の増加となった。死廃事故病類別の第1位は消化器病、第2位は新生子異常であり、呼吸器病が第3位であった。

(病傷事故)

病傷事故総件数は15,321件、支払共済金は156,839,880円となった。乳用牛の病傷事故件数は2,734件、支払共済金は32,482,841円となった。肉用牛の病傷事故件数は12,584件、支払共済金は124,343,350円となった。一般馬の病傷事故件数は3件、支払共済金は13,689円となった。前年度と比較して頭数、支払共済金はともに396件、7,930,918円の増加となった。病傷事故病類別の第1位は呼吸器病、第2位は消化器病であり、生殖器病が第3位であった。

(事故)

区分 \ 項目	死 廃 事 故			
	死亡頭数 頭	廃用頭数 頭	総頭数 頭	支 払 共 済 金 円
搾 乳 牛	35	29	64	12,141,922
繁殖用雌牛	9	2	11	3,614,853
育 成 乳 牛 (子牛等)	2	2	14	817,491
	10			
育成・肥育牛 (子牛等)	91	55	240	56,449,710
	94			
繁殖用雌馬	0	0	0	0
育成・肥育馬	2	0	2	293,300
種 豚	0	0	0	0
肉 豚	0	0	0	0
計	243	88	331	73,317,276

区分 \ 項目	疾 病 傷 害 共 済	
	件 数 件	支 払 共 済 金 円
乳 用 牛	2,734	32,482,841
肉 用 牛	12,584	124,343,350
一 般 馬	3	13,689
種 豚	0	0
計	15,321	156,839,880

(診療所)

診療所名	職員数 人	管 内		診 療 件 数		損 害 防 止 事 業		
		有資格者 頭数	加入者 頭数	共済事故 件	事故外 件	一般 頭(回)	特損 頭(回)	経費概算 円
家畜診療所	13	24,570	23,392	13,508	38,599	5,216	0	155,947

(3)果樹共済関係

【引受概況】

ぶどう

引 受 面 積 : 引受面積は75.5aで、3.1aの減(96.1%)となった。

引 受 率 : 農林水産省発表の結果樹面積(令和7年産)43haに対する引受率は収入保険と併せて23.4%となった。

標準収穫量 : 標準収穫量は8,860kgで前年産標準収穫量9,751kgに対し 90.9%で、平均単位当たり標準収穫量は 1,174kg、国から県への通知単収851kgに対して 138.0%となった。標準収穫金額は7,706,706円となり、平均単位当たり価格は 870円となった。

な し

引 受 面 積 : 引受面積は123.8aで、56aの減(68.9%)となった。

引 受 率 : 農林水産省発表の結果樹面積(令和7年産)38haに対する引受率は収入保険と併せて62.8%となった。

標準収穫量 : 標準収穫量は16,607kgで前年産標準収穫量 24,318kgに対し68.3%で、平均単位当たり標準収穫量は1,341kg、県通知単収1,297kgに対して 103.4%となった。標準収穫金額は9,835,235円となり、平均単位当たり価格は 592円となった。

(引受) 収穫共済・半相殺減収総合一般方式

年 産	共済目的	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A) ± (B) 円
7 年 産	ぶ ど う	3	78.6	6,034,000	76,765		
	な し	7	179.8	9,877,000	179,356		
	計	10	258.4	15,911,000	256,121	(交) 49,037	305,158
8 年 産	ぶ ど う	3	75.5	4,656,000	72,798		
	な し	5	123.8	6,880,000	89,973		
	計	8	199.3	11,536,000	162,771	(納) 76,113	86,658

ア ぶどう

【被害概況】

梅雨明けが6月27日と非常に早く、その後も降水量が少なかったことから果粒肥大の抑制、水不足による果粒の萎みが見られた。高温乾燥期間が長かったため病害の発生は比較的少なかったが、ハダニ類による被害が見られた。ぶどうについては被害申告があったが3割超過被害には該当しなかった。

【評価の概要】

農家申告抜取調査を8月28日～9月2日に1園地で行った。損害評価会委員による県下作況見回り調査を7月29日に行った。

イ なし

【被害概況】

開花期の天候は安定し、受粉や結実は概ね良好となった。梅雨明けが6月27日と非常に早かった等の影響で黒星病等の病害は比較的少なかったが、梅雨明け以降の高温少雨による干害の影響で果実肥大が抑制されたことや、高温障害(果実の焼け、みつ症)が見られ、減収となった。また高温乾燥期間が長かったため、ハダニ類による影響で落葉や葉の機能低下により生育不良(小玉)となり減収となった。

【評価の概要】

農家申告抜取調査を8月18日～9月4日に16園地で行った。損害評価会委員による県下作況見回り調査を7月29日に行った。

(被害)

共済目的	被害組合員数 人	共済金 円	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$ %
ぶどう	0	0	0.00
なし	3	1,243,890	12.59
計	3	1,243,890	7.82

(支払)

共済目的	支払月日	実支払 共済金 円	共済金支払財源					$\frac{\text{実支払共済金}}{\text{共済金}}$ %
			保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
ぶどう	—	0	849,567	305,158	89,165	0	0	
なし	令和8年2月12日	1,243,890						
計		1,243,890	849,567	305,158	89,165	0	0	100.0

(4)畑作物共済関係

【引受概況】

大豆〔半相殺方式、全相殺方式〕・小豆〔半相殺方式〕

引 受 面 積

大豆 : 引受面積は212,344.4aで前年産引受面積229,376.7aに対し、17,032.3aの減(92.6%)となった。
小豆 : 引受面積は424.9aで前年産引受面積224.2aに対し、200.7aの増(189.5%)となった。

引 受 率

大豆 : 農林水産省発表の作付面積7,270haに対する引受率は29.2%で収入保険と併せて69.3%となった。
小豆 : 農林水産省発表の作付面積118haに対する引受率は3.6%で収入保険と併せて22.7%となった。

引 受 収 量

大豆 : 総引受収量 2,675,117kgで、平均実行単収は145kgで県指示単収131kgに対し、110.7%の実行率となった。
小豆 : 総引受収量 2,903kgで、平均実行単収は98kgで県指示単収93kgに対し、105.4%の実行率となった。

単位当たり
共 済 金 額

大豆 : 1kg当たりの平均248円で、前年産の254円に対して6円の減となった。
大豆1類
: 交付農業者 313円 対前年産 交付農業者 : 320円
: 交付農業者以外 152円 対前年産 交付農業者以外 : 152円
: 種子 525円 対前年産 種子 : 516円
大豆2類 : 850円 対前年産 : 896円
大豆3類 : 347円 対前年産 : 365円
小豆 : 1kg当たりの平均765円で、前年産849円に対して84円の減となった。

(引受)

年 産	項目 区分	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) ± (B)
		人	a	円	円	円	円
令和 7 年 産	半相殺方式 (大豆)	156	30,551.6	141,038,439	5,120,095		
	半相殺方式 (小豆)	8	424.9	2,220,795	88,800		
	全相殺方式 (大豆)	233	181,792.8	522,407,083	17,076,668		
	計	延 397 実 353	212,769.3	665,666,317	22,285,563	14,163,981	36,449,544

【被害概況】

大豆

6月27日の梅雨明けから8月上旬は少雨傾向となり、高温少雨の影響で播種から乾燥した状態が続いたほ場では、出芽が遅れたり揃いが悪くなった。8月後半に再び高温で降雨がほとんどなかったため、過乾燥となったほ場では落花等の干ばつ害が発生した。9月から10月は害虫の発生が多く、県内各地でハスモンヨトウによる葉や莢の食害が見られ、葉脈や葉柄を残して葉を食べ尽くされたほ場もあった。また、ミナミアオカメムシも莢に群がって吸汁している状態が10月下旬頃まで確認された。10月中旬頃から葉の黄化が始まったが、6月中頃～10月中旬は気温が概ね平年より高く推移し、落葉が平年より遅れるほ場が目立った。さらに干ばつ害で着莢数が不十分であったり、カメムシ類の吸汁害による不稔や子実肥大の阻害が原因と考えられる青立ちが多くみられた。作柄はほ場間や地域間の差が大きい、干ばつの影響による生育抑制や着莢数の減少、子実肥大の阻害、ハスモンヨトウやタバコガ類、吸実性カメムシ類による被害や青立ちの発生が多くみられ、カメムシ被害による吸実粒に加えてフタスジヒメハムシ等による斑点粒、皮切れ粒の混入も目立ち、全体として小粒傾向で、収量・品質は平年と比べてやや不良～不良であった。

小豆

発芽や初期生育は順調であったが、大豆と同様に干ばつやカメムシ類の影響を受け、着莢数が大幅に減少した。僅かに収穫できた小豆は変形粒や小粒が多く、収量・品質ともに非常に悪い結果となった。

【評価の概要】

大豆

半相殺大豆の悉皆調査は10月31日～12月9日にかけて354筆。全相殺大豆と合わせてのすき込み・転作は133筆、収穫皆無は16筆。損害評価会委員による県下作況見回り調査を11月5日・11月19日に実施した。

小豆

悉皆調査を11月7日～11月14日にかけて14筆行った。収穫皆無は10筆。損害評価会委員による県下作況見回り調査は11月19日に実施した。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$
		人	円	%
	半相殺方式(大豆)	56	18,601,863	13.19
	半相殺方式(小豆)	7	1,907,910	85.91
	全相殺方式(大豆)	84	58,282,720	11.16
計	延	147	78,792,493	11.84
	実	139		

(支払)

項目 区分		支払月日	共済金支払財源					実支払 共済金	
			実支払 共済金 円	保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	共済金 円 %
半相殺方式 (大豆)		令和8年3月13日	18,601,863						
半相殺方式 (小豆)		令和8年3月13日	1,907,910						
全相殺方式 (大豆)		令和8年5月7日	58,282,720						
計			78,792,493	35,616,183	36,449,544	0	6,726,766	0	100.0

(5)園芸施設共済関係

【引受概況】

引 受 棟 数：前年度引受棟数3,189棟に対し、3,284棟で前年対比103.0%となった。

共 済 金 額：前年度引受共済金額5,100,003千円に対し、6,468,843千円で前年対比126.8%となった。

共 済 掛 金：共済掛金総額は47,012,055円で、このうち国庫負担額が20,266,836円、保険料は及び保険料：9,971,543円となった。

(引受)

施設区分	項 目	組 合 員 数 人	引 受 棟 数 棟	引受面積 ㎡	共 済 価 額 千円	共 済 金 額 千円
ガラス室Ⅰ類 (木造)		1	2	912	7,687	6,150
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		37	58	98,901	2,361,402	2,313,282
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		3	5	1,551	3,390	3,158
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		1,220	2,985	830,744	3,209,736	2,888,746
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		30	37	38,428	221,601	204,502
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		21	26	18,418	228,346	207,915
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		31	50	57,856	668,024	571,596
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		14	23	12,829	196,227	172,029
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		32	79	28,396	84,889	83,139
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		11	19	49,341	19,904	18,326
計	延実	1,400 1,082	3,284	1,137,376	7,001,206	6,468,843

施設区分	項 目	共 済 掛 金 A 円	農家負担掛金 円	保 険 料 B 円	交 付 金 円	手 持 掛 金 A-B 円
ガラス室Ⅰ類 (木造)		7,992	4,026	490	3,476	7,502
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		1,732,849	1,088,243	71,274	573,332	1,661,575
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		21,462	12,856	1,293	7,313	20,169
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		41,422,547	23,495,297	9,549,713	8,377,537	31,872,834
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		1,276,010	722,304	222,758	330,948	1,053,252
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		1,200,955	669,638	27,581	503,736	1,173,374
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		818,865	430,353	23,859	364,653	795,006
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		100,544	62,534	4,784	33,226	95,760
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		300,144	182,400	67,237	50,507	232,907
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		130,687	77,568	2,554	50,565	128,133
計		47,012,055	26,745,219	9,971,543	10,295,293	37,040,512

【被害概況及び評価の概要】

令和8年1月の突風及び降雪によりパイプハウス等に被害が発生した(被害48棟、支払共済金2,410,564円)。また、降雪および施設内農作物の病害を含め、126棟(前年対比67.0%)、支払共済金10,328,335円(前年対比48.4%)となった。

(被害)

施設区分	組合員数 人	棟数 棟	被害額 円	附帯施設数 基
ガラス室Ⅰ類 (木造)	0	0	0	—
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)	4	4	3,065,851	—
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)	0	0	0	—
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)	118	116	7,718,092	—
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)	3	3	117,602	—
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)	1	1	177,461	—
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)	2	2	1,016,980	—
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)	0	0	0	—
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)	0	0	0	—
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)	0	0	0	—
計	延実 128 97	126	12,095,986	—

施設区分	支払共済金 円	保険金 円	支払共済金 共済金額 %
ガラス室Ⅰ類 (木造)	0	0	—
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)	2,452,680	0	0.21
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)	0	0	—
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)	6,802,504	1,434,965	0.25
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)	117,600	0	0.07
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)	141,968	0	0.07
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)	813,583	0	0.14
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)	0	0	—
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)	0	0	0.00
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)	0	0	—
計	10,328,335	1,434,965	0.20
年間超過損害保険金	0	0	—
合計	10,328,335	1,434,965	0.20

(支払)

区分	支払年月日	実支払共済金 円	共済金支払財源	
			保険金 円	手持共済掛金充当額 円
令和7年度	令和7年5月25日～ 令和8年4月27日	10,328,335	1,434,965	8,893,370

区分	共済金支払財源			実支払共済金 共済金 %
	法定積立金充当額 円	特別積立金充当額 円	その他 円	
令和7年度	0	0	0	100.0

(6) 損害防止状況

ア 農作物共済

農作物共済事業の損害防止については、下記のとおり獣害による被害防止に努めた。

獣害の防止対策については、関係機関と連携して取り組んでいる防護柵の増設等により、被害の軽減は認められるもののサル、シカ、イノシシ等による農作物への被害が見られており、減収・品質低下・耕作放棄などの問題が発生している。

これらの野生動物から農作物被害を未然に防止するため、農業組合等が実施する獣害対策への支援を行っている。助成対象としては1農業組合等が対象となり193,400円を交付した。

イ 家畜共済

共済事故を未然予防、損害拡大抑制により畜産農家の経営安定を図るため、組合独自の一般損害防止事業を実施している。家畜診療所では多種多様化する加入者の損害を分析し、ニーズにあった損害防止を行っている。令和7年度の一般損害防止費は155,947円であり、飼養管理指導を5,216頭に行い、検討会を5回実施した。

実施種目		対象頭数・回数 頭(回)	経 費 円	摘 要
一般損害防止	予防衛生措置	0	0	
	飼養管理指導	5,216	155,947	乳用牛、肉用繁殖牛の繁殖検診、肉用牛の呼吸器病対策(鼻腔スワブ検査)ならびに生産性向上対策(抗生物質耐性菌調査)を実施。
	講習会・検討会	5	0	牧場コンサルタント獣医師との検討会を実施。

(7)任意共済関係

① 建物共済関係

【事業概要】

建物共済については「未来へつなぐ」サポート運動と連携し、役職員一丸となって継続加入の推進および臨時費用特約、小損害実損填補特約の加入推進により補償の充実を図った。また、未継続者を出さないために自動継続特約の推進を行った。農家建物45,837棟(前年対比97.9%)、農家建物共済金額64,645,125万円(前年対比98.0%)の引受結果となった。

建物共済の事故については、雪害と、落雷による棟数は122棟(全体の51.7%)、支払共済金20,178,263円(全体の23.5%)となった。また、火災事故は棟数は少ないが全焼もあり支払共済金51,854,408円(全体の60.4%)となった。

ア 引受

(a) 農家建物共済引受状況

区 分	加入棟数 棟	共済金額 万円	共 済 掛 金			一棟当たり 平均 共済金額 万円	再共済掛金 及び 任意保険料 円	再共済手数料 及び 保険手数料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円			
火 災	32,485	48,556,983	187,496,342	153,041,279	340,537,621	1,495	再共済割合	再共済手数料
総 合	13,352	16,088,142	272,531,619	93,250,557	365,782,176	1,205	地震部分 50% 地震以外 30%	掛金率における 賦課金割合 － 4.5%
合 計	45,837	64,645,125	460,027,961	246,291,836	706,319,797	1,410	269,977,251	72,169,924

(b) 用途別引受状況

用 途	棟 数 棟	共済金額 万円
住 宅	29,604	48,600,229
納屋・物置・ 農作業場等	6,846	3,555,699
倉庫・土蔵	2,156	1,232,662
公民館・集会所	1,602	3,136,981
そ の 他	5,629	8,119,554
合 計	45,837	64,645,125

(c) 収容農産物補償特約引受状況

【事業概要】

収容農産物補償特約は、保管中農産物補償共済への移行加入等もあり、前年より加入口数等が減る結果となった。被害申告はなかった。

区 分	加入口数 口	加入総支払 限度額 万円	共 済 掛 金			一口当たり 平均支払 限度額 万円	再共済掛金 及び 任意保険料 円	再共済手数料 及び 保険手数料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円			
総 合	51	5,100	107,100	45,900	153,000	100	再共済割合 30%	再共済手数料 25.50%
合 計	51	5,100	107,100	45,900	153,000	100	53,040	11,698

イ 事故

(a) 農家建物共済事故状況

区 分		事故棟数 棟	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
火災	火 災	6		51,854,408	15,556,320	0.01068
	拡張担保	75		7,908,837	2,372,628	0.00163
	計	81	48,556,983	59,763,245	17,928,948	0.01231
総合	自然災害	116		21,782,287	6,534,636	0.01354
	火 災	0		0	0	0.00000
	拡張担保	39		4,255,805	1,276,730	0.00265
	計	155	16,088,142	26,038,092	7,811,366	0.01618
合 計		236	64,645,125	85,801,337	25,740,314	0.01327

(b) 農家建物共済原因別事故発生状況

原 因 別	事故棟数 棟	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
火災	6		51,854,408	15,556,320	0.00802
ひょう害	11		4,553,020	1,365,900	0.00070
落雷	41		5,532,967	1,659,880	0.00086
物体の飛来	2		111,588	33,476	0.00002
風害(突風等)	22		2,523,098	756,923	0.00039
泥棒による毀損	11		843,323	252,994	0.00013
車両の当て逃げ等	5		285,743	85,721	0.00004
第三者行為	7		688,506	206,550	0.00011
台風	2		60,873	18,261	0.00001
雪害	81		14,645,296	4,393,552	0.00227
水道管凍結	8		247,600	74,279	0.00004
建物内部の車両衝突	2		224,321	67,295	0.00003
給排水設備	1		855,342	256,602	0.00013
外部からの物体の落下等	37		3,375,252	1,012,561	0.00052
合 計	236	64,645,125	85,801,337	25,740,314	0.01327

(c) 収容農産物補償特約事故状況

区 分		事故口数 口	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
総合	自然災害	0		0	0	-
	火災	0		0	0	-
	拡張担保	0		0	0	-
	計	0		0	0	-
合 計		0	5,100	0	0	0.00000

(d) 収容農産物補償特約事故発生状況

原 因 別	事故口数 口	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
—	0	0	0	0	0.00000
合 計	0	5,100	0	0	-

② 農機具損害共済関係

【事業概要】

農機具損害共済は、クロスコンプライアンス、機械の大型化、高性能化に伴う新車価格の高額化等により引受台数9,185台（前年対比102.1%）、引受共済金額3,205,597万円（前年対比105.1%）と台数、共済金額ともに増加した。

農機具損害共済の事故については、事故台数221台（前年対比83.1%）、支払共済金46,195,667円（前年対比54.4%）と、前年よりも大幅に減少した。

ア 引受

項 目		加入台数 台	加 入 共 済 金 額 万円	共 済 掛 金			1 台 当 たり 共 済 金 額 万円
				純共済掛金 円	事務費賦課金 円	計 円	
損 害 共 済		9,185	3,205,597	110,108,558	33,562,886	143,671,444	349
内 訳	火 災 共 済	731	139,645	1,419,325	759,530	2,178,855	191
	総合共済 (普通物件)	8,411	3,062,177	108,235,539	32,700,830	140,936,369	364
	総合共済 (特殊物件)	43	3,775	453,694	102,526	556,220	88

イ 事故

(a) 共済金支払状況

項 目		事故台数 台	加 入 共 済 金 額 (イ) 万円	支 払 共 済 金			被 害 率 (ロ)/(イ) %
				火 災 円	接 触 等 そ の 他 円	計 (ロ) 円	
損 害 共 済		221	3,205,597	84,763	46,110,904	46,195,667	0.1441
内 訳	火 災 共 済	1	139,645	0	70,215	70,215	0.0050
	総合共済 (普通物件)	219	3,062,177	84,763	46,017,507	46,102,270	0.1506
	総合共済 (特殊物件)	1	3,775	0	23,182	23,182	0.0614

(b) 原因別事故発生状況

項 目	事故台数 台	加 入 共 済 金 額 （イ） 万円	支 払 共 済 金 （ロ） 円	被 害 率 （ロ）／（イ） %	備 考
原因別					
衝突	21	/	7,144,126	0.0223	
接触	155		28,458,464	0.0888	
転覆	8		4,864,053	0.0152	
異物の巻き込み	14		2,917,388	0.0091	
物の落下・飛来	19		1,698,178	0.0053	
風水害	2		684,153	0.0021	
火災	1		84,763	0.0003	
落雷	1		344,542	0.0011	
計	221	3,205,597	46,195,667	0.1441	

③ 保管中農産物補償共済関係

【事業概要】

保管中農産物補償共済は、近年自然災害が多発している事と、建物共済 収容農産物特約契約者の移行のため加入口数等が増加している。被害申告はなかった。

ア 引受

(a) 引受状況

区 分	加入口数 口	加入総支払 限度額 万円	共 済 掛 金			保険料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円	
Aタイプ	56	5,600	98,000	42,000	140,000	104,272
Bタイプ	20	2,000	91,000	39,000	130,000	96,840
合 計	76	7,600	189,000	81,000	270,000	201,112

(b) 種類別引受状況

用 途	口 数	加入支払限度額 万円
米	76	7,600
合 計	76	7,600

イ 事故

(a) 事故状況

区 分	事故口数	加入総支払限度額	支払共済金	保険金	被害率
	口	(イ) 万円	(ロ) 円	円	(ロ)/(イ) %
Aタイプ	0	0	0	0	－
Bタイプ	0	0	0	0	－
合 計	0	0	0	0	－